

# 令和5年度 校内研修（究）計画書

十和田市立三本木小学校

## 1 学校の教育課題

### 【確かな学力の育成にあたって】

思考力・判断力・表現力を身に付けた子供の育成

- 児童の向上心をくすぐる授業の実践（「三小の学び」の浸透）
- 基礎・基本の定着を図る施策の充実
- 授業における ICT 機器の効果的な活用

### 【児童の実態】

- 素直で前向きな態度で学習に臨んでいる。
- 友達と助け合いながら学習に取り組んでいる。
- 主体性と探究心の更なる向上をめざす。
- 学力、学習習慣の定着において個人差が大きい。
- 場に応じた話し方（内容、伝え方）が身に付いていない。

### (1) 教育目標・努力目標

教育目標	努力目標
自ら学ぶ子（知）	めあてをもって進んで学習する
思いやる子（徳）	相手の立場や気持ちを考えて行動する
たくましい子（体）	健康で明るく元気に運動する
ねばり強い子（意）	協力し合って最後まで活動する

### (2) 【校訓】 自立・感謝・進取

本校の学区には、市の開祖ともいふべき新渡戸家三代を祀る太素塚があり、校内には新渡戸傳翁の肖像画、新渡戸稻造博士の銅像がある。

こうした偉大な先人が残した学びの教えは校歌にも詠まれており、その校歌の精神を集約したものが、本校の校訓「自立」「感謝」「進取」である。

「志・希望・夢をもち、創造力豊かで、未来を主体的に切り拓く杉の子」を育むために、この校歌の精神を踏まえ、具現化に向けた指導に取り組んでいきたい。

- ① 子供一人一人に、将来にわたって自己を開拓し、自己実現を追求する能力と社会に貢献できる資質の基礎を育む 自立（国の柱となりぬべし）
- ② 先人の努力に対する畏敬の念、及び、共に学び、共に支えあって生きている隣人への思いやりと感謝の心を育む 感謝（恩をばいかで忘るべき）
- ③ 将来への夢や希望をもち、その達成に向けて自己を高めるための自己教育力を育む 進取（学びの道を進まばや）

## 2 本年度の研究計画

### (1) 研究主題

主体的に学び、対話を通し、考えを深める児童の育成

～算数科における「つかむ」「深める」場面に焦点を当てた授業実践を通して～

【主体的に学ぶ】とは

主体的な学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申(H28.12)において、以下の視点に立った授業改善を行うことが示されている。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

主体的な学びを実現するためには、学習の過程における「つかむ」場面において、自分なりの課題を設定できることが大切である。子供自身が興味を持ち、自分の課題を設定できる子供の姿をめざしていく。（「主体的に学ぶ」子供の姿）

【対話を通し、考えを深める】とは

対話的な学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申(H28.12)において、以下の視点に立った授業改善を行うことが示されている。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

対話を通し考えを深めるためには、学習の過程における「深める」場面において、論理的思考を働かせながら対話し、知識を相互に関連付けて考えることができるようになることが大切である。対話を通し、知識をつなげたり関連付けたりして、自分の考えを深めることができる子供の姿をめざしていく。（「考えを深める」子供の姿）

(2) 主題設定の理由

①学習指導要領との関連から

「第1章 総則」

第1-2-1(1)

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。

第3-1-1(1)

第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

第3-1-1(4)

児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。

②児童の実態、学校や地域の課題との関連から

本校は十和田市の中心に位置し、創立150年の伝統ある学校である。また、地域や保護者の教育に対する意識も高く、協力的な保護者が多い。一方、様々な家庭環境を背景とした家庭の教育力の二極化が見られる。また、特別支援教育については、交流学习が活発に行われ、通常の学級の児童も特別支援学級在籍の児童も、互いの特徴を認め合い、支え合うなど学級内の温かい人間関係が構築されている。

素直な児童が多く、友達と助け合って課題に取り組むことができる。その反面、自ら率先して何かをしようという主体性と探究心が弱く、更なる向上をめざす。

### ③これまでの研究の成果と課題から

学習指導要領の趣旨を踏まえた資質・能力の育成をめざし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組み、本校の学習スタイル「三小の学び」を確立することを中心に校内研修を進めてきた。その結果、児童の「主体的な学び」を引き出すために、6つの資料提示の工夫によって、自分の課題を設定できる子供の姿が見られてきたことが成果として挙げられる。さらに、児童の振り返りを一層大事にし、振り返りの言葉を丁寧に見取り、教師が価値付けをして次時の課題につなげ、より児童が興味や関心をもって学習に向かい、次の学びにつなげる「主体的な学び」をめざしていく。また、6つの項目は、様々に解釈できる項目があることから、それぞれについて共通のイメージがもてるように項目を精査していく。

「対話を通し、考えを深める」ことについては、10の論理的思考を働かせ、対話の観点が絞られるようにしたことで、児童の対話がかみ合い、考えが深まる姿が見られるようになってきた。また、教師が、10の論理的思考を働かせた対話を通して考えが深まった児童の姿を具体的に設定して指導案に明記し授業を行ったことで、本時の目標に向かってぶれずに授業を進めることができた。

引き続き授業においてICTを活用する際には、高めたい能力や期待される効果を明確にもち、授業で活用していく。

今後は、単元を通して児童につけるべき力を明確にして評価規準を作成し、適切な場面で評価を行い、授業へ反映させていくことが課題である。

### (3) 研究目標

主体的に学び、対話を通し考えを深める児童を育てるためには、「つかむ」場面における課題設定力の向上と、「深める」場面における論理的思考力の向上を図ることが有効であることを、実践を通して明らかにする。

### (4) 研究仮説

①「つかむ」場面において、児童の「知りたい」「調べたい」という意欲を引き出す資料提示の工夫をし、自分の課題を設定させることで、児童は主体的・持続的に学習に取り組むことができるであろう。

#### 【「つかむ」場面の工夫】

- ①課題が明確になるような資料提示
- ②自分で課題を設定できる資料提示
- ③体験から課題が設定できる資料提示
- ④課題を段階的に（前時までの振り返りを活用して）設定できる資料提示
- ⑤いろいろな考えを引き出す資料提示
- ⑥疑問を整理し、関係を明確にする資料提示



自分の課題（①全体の課題あるいは②個々の課題）を設定させる。  
（※「三小の学び」つかむ場面の指導の工夫）

②「深める」場面において、論理的思考を働かせた対話を通して、知識をつなげたり関連付けて考えたりさせることで、児童は考えを深めることができるであろう。

【「深める」場面の工夫】

- ①順序付ける（時系列や場面）
- ②比較する（比べる）
- ③分類する（分ける）
- ④関連付ける（出来事，人，時間）
- ⑤多面的（複数面から）に見る，多角的（複数視点）に見る
- ⑥理由付ける（原因や根拠を見付ける）
- ⑦見通す（解決方法を見通す・結果を予想する）
- ⑧具体化する（個別化する，分類する）
- ⑨抽象化する（一般化する，統合する）
- ⑩構造化する（構成要素と構成要素間の関係を整理して設定・提示）



知識をつなげたり関連付けて考えたりさせる。  
 （※「三小の学び」深める場面の児童の思考）

(5) 仮説の検証に向けて

①研究推進体制

**研修推進委員会**（校長，教頭，教務，研修主任）

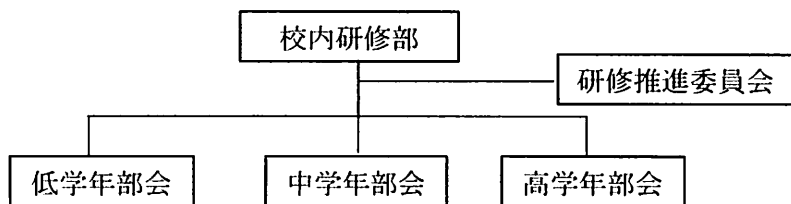
・研修部より出された研究全般についての案件について確認・協議し，研究全体の方向性について助言する。

**校内研修部**（研修主任，各部会リーダー）

・校長の学校経営グランドデザインを受け研修主任より出された研究全般についての案件，研究の進め方について確認・協議し，研究を進める。

**各部会**（低学年部会，中学年部会，高学年部会）

・提案された研究の進め方をもとに各部会で研究を進める。



部 会	部 員 名
低学年	
中学年	

高学年	

②研究の進め方

- ・担当学年の部会に所属する。特別支援学級担任は担当児童の交流学級の学年部会に所属する。
- ・各部会にリーダー，サブリーダーを1名ずつ置く。  
※リーダーは，学年主任・特別支援教育部主任・分掌主任以外の者とし，校長が指名する。
- ・全体での検証授業を年3回設定する。校外より助言者を招聘し，授業後は全体での協議会を行い，助言をいただく。  
※検証授業を行う授業者は，リーダーが集まって話合いで決定する。
- ・授業参観者は授業者に感想を提出する。
- ・後期に，各部会での成果と課題をまとめ，全体で共有する時間を設ける。
- ・検証授業でタブレットを使う際には，ICT を使って身に付けさせたい力や期待される効果を明確にして授業実践を行う。  
※「ICT 機器を使って身に付けさせたい力とは」P4 10の論理的思考を指す。

③評価について

ア 教育活動アンケートによる検証

達成目標：「知」A+B評価90%以上

イ CRTの結果による検証

達成目標：全国比110%以上

ウ 授業後の協議会，感想による検証

主題に迫る肯定的な意見が出されたか。

エ 授業における児童の様子を観察による検証

評価に対する「おおむね満足できる」状況（B）評価を具体的に設定して，児童の様子や変容から達成状況を見取る。

(6) 研究日程

No	月 日	内 容	方法	教科領域	要請指導主事等
1	4月17日(月)	共通理解① ・今年度の研修計画について ・研究主題，目標，仮説について ・三小の学びについて	全体協議	算数	
2	4月20日(木)	共通理解② ・指導案の様式について ・評価について ・今年度の研修参加体制の確認	全体協議	算数	
3	5月11日(木)	共通理解③ ・仮説について ・検証授業の計画について	全体	算数	
4	6月8日(木)	共通理解④ ・講義	部会	算数	十和田市立北園小学校 校長

5	6月15日(木)	部会① ・指導案検討	部会	算数	
6	8月22日(火)	道徳の研修 ・規範意識の育成と道徳の授業について	部会	道徳 全領域	十和田市教育委員会指導課 指導主事
7	8月31日(木)	部会② ・指導案検討	部会	算数	
8	9月21日(木)	検証授業①	全体 協議	算数	上北教育事務所教育課 指導主事
9	9月28日(木)	部会③ ・指導案検討	部会	算数	
10	10月11日(水)	検証授業②	全体 協議	算数	横浜町立横浜小学校 校長
11	10月26日(木)	部会④ ・指導案検討	部会	算数	
12	11月9日(木)	検証授業③	全体 協議	算数	十和田市教育委員会指導課 指導主事
13	1月11日(木)	部会⑤ ・成果と課題について	部会	算数	
14	1月18日(木)	各部会から成果と課題の報告 ・課題から見出される次年度の方向性	全体 協議	算数	
15	2月1日(木)	・次年度の研究についての確認	全体 協議	算数	

### 3 研修計画

#### (1) 研修の重点

教師の指導力向上を目指して、優れた技能や知識・経験をもった講師を招いて研修を行い、実践的な知識と技能を身に付ける。

#### (2) 研修日程

No	月日	内 容	方法	教科 領域	講師等
1	4月20日	タブレット研修会 ・タブレット端末ルールについて	全体	全教科 全領域	校内講師 (学習指導部)
2	8月22日	道徳の研修 ・「規範意識の育成と道徳科の授業」	全体	全教科 全領域	十和田市教育委員会指導課 指導主事

本主題での研究	1年目	研究教科等	算数科
研修主任		研究指定の有無	有